

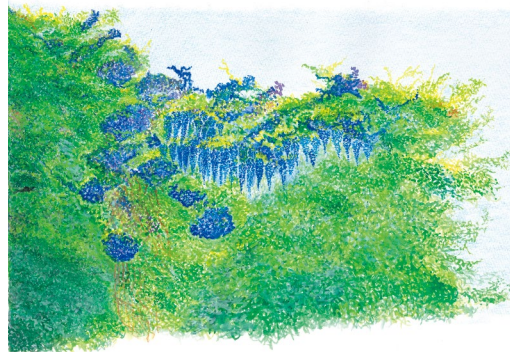
表紙のことは

藤山 光彦「春霞とデイケア裏山、野生の藤」

左視床出血で右片麻痺となり、2022年11月で3年が経過しました。自宅とデイケア週2日のリハビリの日々。何かしなければ、何だっただけなのかで止まっていた2022年の1月に、PTの先生から表紙募集・応募の話をいただいて、その場でやりますと決めました。

視床出血による麻痺や感覚障害、運動失調等の後遺症のため、これまでの描き方では困難でした。それでも他に方法があるはずと考えていました。手の平を上にした状態の右手を、下から支えるように左手にのせると、指は緩みやすくなり、左手で支持している分、右手の失調を少し抑えることができました。ペンも中指と薬指のみで挟む等、試行錯誤の中、約5カ月かけて完成しました。

春ののどかな日中の春霞の景色の中、隣の樹に絡ませながら逞しく生きる藤から、生命力をいただきました。



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



服部 光政「ベニス」

日曜日、服部さんは施設のアトリエで画家になります。慣れない左手で、時には2時間も描いています。お気に入りの場所は、廊下のギャラリー。

描くときのお気持ちは？「浮かんだものを一心不乱にそのまま描く」。服部さんにとって絵画とは？「僕だけの自由な時間」。「孫に見てほしい」と豊かな日々を過ごされています。（担当 OT：寺村等子）